

令和元年6月28日現在

機関番号：84301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02996

研究課題名(和文)古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究

研究課題名(英文)Comprehensivization of the Kofun period armament tool study, and fundamental study of political and cultural significance in ancient East Asia.

研究代表者

古谷 毅 (FURUYA, TAKESHI)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部考古室・主任研究員

研究者番号：40238697

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：古墳時代は古墳の築造を通じて日本列島が国家形成する時期にあたり、埴輪と副葬品には武器・武具や馬具が数多く含まれ注目される。一方、古墳時代武装具の歴史的意義を明らかにするためには、東アジアの武装具研究との比較・検討が不可欠で、日本・韓国・中国における比較・検討を進めた。とくに韓国出土の形象埴輪を調査・分析することで、形象埴輪の性格と古墳時代武装具の歴史的意義を研究する基盤を形成することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、古墳時代における武装具と日本独自の形象埴輪を比較することで、古代国家形成期における文化的性格を明らかにした。これは東アジアの武装具は軍事的色彩が強いのに対して、日本では儀礼的な威儀具の性格が強いことを示しており、日本列島における古代国家形成期の社会的性格や韓国出土の形象埴輪の性格を分析する糸口を得た。また、東アジアにおける日本古代国家の歴史的な性格を研究する基礎を形成することができた。

研究成果の概要(英文)：The Kofun period is the time when the Japanese archipelago forms a nation through the construction ceremonies of the tombs, and a large number of weapons, armors and harnesses are included in the Haniwa and coterie items and they are attracting attention. On the other hand, in order to clarify the historical significance of armor in the Kofun period, it is essential to compare and study armament research in East Asia, and we proceeded with comparison and examination in Japan, Korea, and China.

In particular, by surveying and analyzing the shape of the figurine Haniwa from Korea, it was possible to form a foundation to study the character of the figurine Haniwa and the historical significance of armor of the Kofun period.

研究分野：日本考古学

キーワード：古墳時代 古代東アジア 葬送儀礼 武装具 形象埴輪 装飾性 伝統性

1 研究開始当初の背景

日本列島(以下、列島)の国家形成期にあたる古墳時代は、列島内の地域統合が東アジアにおける独自の墓制である前方後円墳を代表とする古墳で執行された葬送儀礼(イデオロギー)を共有することで拡大・進展したと考えられている。これらの課題における検討対象は、主に古墳の埋葬施設・副葬品や土器・埴輪・鉄器等の手工業生産品をはじめ、イデオロギーに基づく活動が行われた祭祀・居宅遺跡等の分析、日本・中国等の文献記録や古墳時代金石文等の史資料の分析であるが、いずれも議論が細別化し、各種儀礼の実態に関する総合的な復原的研究は緒についたばかりである。

このような中で、古墳副葬品には、古墳出現当初(3世紀後半)から鉄製を中心とした武器・武具や古墳時代中期(5世紀)以降に出現する馬具が数多く含まれ、古墳における葬送儀礼に重要な役割を果たしたとみられることは注目される。一方、古墳出現当初に成立した埴輪は、古墳葬送儀礼の場である墳頂部等に樹立され、早くから葬送儀礼が反映した有力な資料と捉えられてきた。古墳時代前半期(4世紀後半～5世紀後半)は各種の形象埴輪(器財埴輪)が出現し、主要な器種には建物・威儀具形と並んで武装具を写した器種が多数含まれることは重要である。

このような列島の葬送儀礼における武装具の卓越性は古墳文化の性格の一面を示すものであるが、副葬品における武装具とおおむね一致する器種(甲冑・靱形)と特定形式がモデルとなる器種(大刀形)があり、葬送儀礼における両者の性格差が顕在化していると考えられる。このような形象埴輪群の形成と列島内外への拡大過程の調査・分析は、古墳時代研究にとって最重要課題の一つである。

高い技術的専門性が要求される形象埴輪は、古墳時代前半期に近畿地方から各地方に急速に拡大するが、背景には埴輪工人(製作技術者)の移動を伴う地方生産の成立が想定され、その技術交流の契機には首長間における政治的な背景が想定される。従来の埴輪研究は編年論が主流であったが、1990年代以降、史跡整備等による大規模発掘調査で具体的な群構成と配置に関する調査が進展し、本来の群構成や配置分析を行う研究環境が整いつつある。このような動向を踏まえ、これまで科学研究費補助金の給付(A平成13～15年度[課題番号12610422]、B平成17～19年度[同1720127]、C平成21～24年度[同23520943]:以下、課題研究)を受けて調査・分析を進め、東北地方から九州地方の形象埴輪樹立古墳出土資料の悉皆調査による分類と分析によって、形象埴輪群の群構成と配置・配列の実態の一端を明らかにすることができた。

2. 研究の目的

1(研究の背景)を踏まえ、以下の形象埴輪および副葬品組成等の分析と両者の比較・検討を通じて、古墳時代武装具および武装具形埴輪に共通する性格と意義を明確化すると共に、その特質を日本原始・古代の政治・文化史に位置づけることを到達目標として、東アジアにおける古墳時代武装の歴史的意義を明らかにするための研究基盤を整備する。

一方、平成27～28年度に実施した韓国出土の形象埴輪の調査・研究における国際共同研究の成果に基づき、この過程で形成された相互研究交流体制の維持・発展を図ることができると期待されるような研究環境の整備も推進する。

3. 研究の方法

2(研究目的)に必要な検討課題について、次のような視点と手順で研究計画を立案・遂行した。

第一に、形象埴輪については、これまでの課題研究A～Cにおいて対象とした各地の古墳出土埴輪群の分析結果を踏まえ、埴輪樹立時の群構成と配置・階層性を復原する。その中で出土位置が明確で良好な発掘資料を中心に、武器・武具形および馬形埴輪を中心に検討・分析し、埴輪群における個々の機能的特性と性格を分析する。また、古墳副葬品における武装具との比較・分析を通じて、個々の機能的特性の共通性と相違性を確認する。

第二に、古墳副葬品組成の主要な位置を占める武装具については、典型的資料の調査と研究成果から、個々の機能的性格を分析し、古墳文化(葬送儀礼)における武装具の位置づけ(階層性)を復原する。とくに、出土位置が明確な良好な発掘資料を中心に、武装具副葬品の組成と実態を把握し、類型化からその歴史的意義を検討・分析する。

第三に、上記を踏まえ、古墳上で執行された葬送儀礼の実態に関する総合的な復元的検討を行い、古墳文化における武装具の性格を分析する。さらに、古墳文化における武装具の性格と東アジア諸地域の武装具研究との比較を通じて、その共通点と相違性を検討し、東アジアにおける古墳時代武装具の特質を分析する。

さらに、本研究に関わる韓国・中国の研究状況を調査し、日・韓・中の武装具研究の比較・検討を試みる。とくに、近年出土した韓国の馬形埴輪をはじめとする形象埴輪については、韓国側研究協力者の支援を得て資料調査・現地調査の上で、韓国出土形象埴輪の位置づけおよび性格を分析し、日韓両国における武装具や馬形埴輪の性格差と共通性を検討する。また、韓国国内において調査・研究成果を公開すると共に、本研究に対する評価・意見交換を実施して問題点の掘り下げを図る。なお、年度毎に研究協力者の協力を得て年数回の研究会を開催し、併せて研究計画および研究対象・研究成果等の調査情報を把握・共有化を図る。

4. 研究成果

まず、形象埴輪については、国内調査は年度毎に課題研究A～Cで把握した主要な形象埴輪出土古墳のうち、出土状況が明確な資料を分析対象として選択し、九州・近畿・関東地方を重点的に調査した。平成27年度は福岡・大分県・大阪府・群馬県、平成28年度は福岡県・大阪府、平成29・30年度は福岡・大阪府・京都府において、資料調査を実施した。調査対象は、福岡県嘉麻市沖出古墳・大分県大分市亀塚古墳・京都府与謝野町蛭子山1号墳・大阪府高槻市今城塚古墳・群馬県伊勢崎市赤堀茶臼山古墳出土埴輪である。これら

の調査では、埴輪群の現地生産構造を把握することができた。

一方、平成28年度は国外調査として、韓国全羅南道務安郡咸平の全南文化財研究所保管の金山里方台形古墳出土形象埴輪・円筒形土器(埴輪)、および大韓文化財研究院保管の円筒形土器(埴輪)資料の調査を実施し、形象埴輪における製作技術の外来性を確認することができた。この他、国立全州博物館・国立羅州文化財研究所・国立忠南大學校博物館・羅州市伏岩里古墳展示館等の展示資料を調査した。また、金山里方台形古墳をはじめとする韓国埴輪出土古墳の現地調査を実施した。

次に、武装具については、年度ごとに基礎的情報の整備を進めると共に、平成27・28年度は東京国立博物館、および韓国において国立中央博物館・国立慶州博物館・国立大邱博物館・国立光州博物館・国立忠南大學校博物館・羅州市伏岩里古墳展示館、平成29年度は中国において社会科学院考古研究所・陝西省歴史博物館・陝西省考古研究所、および韓国において国立慶北大學校博物館・嶺南大學校博物館・国立大邱博物館・国立慶州博物館等において調査を行った。これらの調査では、日中韓における武装具の歴史的 성격に関する基礎的情報を把握することができた。

一方、研究会等は、調査毎に各所蔵機関および東京国立博物館・京都国立博物館において研究会を実施した。ここでは各調査成果の分析・研究報告を行い、韓国出土円筒形土器・形象埴輪と古墳時代武装具関係資料を比較・検討し、その政治・文化史的性格と歴史的意義の検討を進めた。

またさらに、各年度1回は形象埴輪出土古墳が確認されている韓国国内で研究会を開催した。平成27年度は韓国・国立慶北大學校において、韓国側研究協力者と共に慶北大學校合同研究会として公開共同研究会(第1回古代韓日古墳研究交流会：平成28年2月)を開催し、これまでの課題研究A～Cの研究成果と研究課題を報告・公開して評価等の意見交換を行うと共に、韓国国内における本研究課題に関する朝鮮(朝鮮)考古学の武装具研究状況について助言を得た〔本書5：学会発表 他〕平成28年度は、韓国・国立慶北大學校において公開共同研究会(第2回古代韓日古墳研究交流会：平成29年2月)を開催し、主に韓国出土円筒形土器および形象埴輪の調査・研究成果と研究課題を報告・公開すると共に、日本・韓国側双方の評価等について意見交換を行い、本研究の課題に関する韓国(朝鮮)考古学の埴輪研究状況についても助言を得た。平成29年度は、平成27～29年度実施の韓国出土形象埴輪に関する国際共同調査・研究の成果公開として、総合的な国際研究集会を開催した。国立慶北大學校博物館で公開共同研究会(第3回古代韓日古墳研究交流会：平成30年3月24日)を開催し、全発表でコメンテーターに韓国人考古学研究者を委嘱して、具体的な所見を基にして相互に意見交換を行った〔本書5：雑誌論文 他・図書〕また、これらの調査・研究活動を通じて、相互研究交流の発展を図るための研究環境・体制の整備を推進した。

なお、本研究におけるこれらの成果は、年度毎に将来のデータ公開に向けてデジタル化・出版化等に必要な準備を進めると共に、平成27年10月に東京国立博物館平成館で公

開した新考古展示室(同館 平成館 1F)の展示室計画および展示に反映させる一方、東京国立博物館および京都国立博物館の常設展示(考古展示室)や特集展示等の計画にも反映させる準備を整えた。

5、主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8件)

古谷 毅「大塚古墳が築かれた時代 -副葬品から見た古墳時代中期における大塚古墳-」『山梨考古』第141号、山梨県考古学協会、pp.8-9、2016年10月〔査読なし〕

古谷 毅「日本列島独自の造形が花開く・古墳時代の歴史」『別冊太陽 古墳時代美術図鑑』(日本のこころ第246号)平凡社、pp.38-41・146-153、2016年12月〔査読なし〕

犬木 努「保渡田八幡塚古墳の形象埴輪配置 -「今城塚類型」との対比から-」『日本古代学論叢』(塚口義信博士古稀記念)和泉書院、pp.10-21、2017年1月〔査読なし〕

古谷 毅「中小古墳と大型古墳 -再整理からみた七瀬古墳の歴史的位罫-」『巨大古墳あらかわ -履中天皇陵古墳を考える-』(第四回百舌鳥古墳群講演会記録集)堺市文化財講演会録第7集、堺市文化観光局文化部 文化財課、pp.27-73、平成27年2月〔査読なし〕

古谷 毅「物部氏と武器生産 -石上神宮と王権の武装-」『天理市観光協会設立60周年記念 大和の中のヤマトシンポジウム ここまで判った物部氏 -布留遺跡の調査成果から』(天理市観光協会)、2018年3月〔査読なし〕

古谷 毅「器財埴輪の伝統性 -武装具形埴輪と倭の武装-」『日韓埴輪の比較・検討と倭系古墳出現の歴史的背景』(第3回古代韓日古墳研究交流会・第34回古墳文化研究会 予稿集)京都国立博物館科学研究費研究会・慶北大学校、2018年3月〔査読なし〕

犬木 努「日本における古墳葬送儀礼と埴輪 -埴輪配置の空間論と構造論-」『日韓埴輪の比較・検討と倭系古墳出現の歴史的背景』(第3回古代韓日古墳研究交流会・第34回古墳文化研究会予稿集)京都国立博物館科学研究費研究会・慶北大学校、2018年3月〔査読なし〕

古谷 毅「考古資料から見た弥生～古墳時代出雲地方の特質 -形成と位罫-」『黄泉国防同譚と古墳時代出雲の葬制-考古学・地質学・歴史学のコラボレーション-』(山陰研究ブックレット 8)島根大学法文学部山陰研究センター、pp.105-129、2019年3月〔査読なし〕

〔学会発表〕(計 3件)

古谷 毅 「器財埴輪のモデル・伝統性 - 武装具埴輪の特性 - 」第1回古代韓日古墳研究
交流会、韓国慶北大學校、2016年2月13日

犬木 努 「形象埴輪の本義と今城塚古墳」秋季企画展 王権儀礼に奉仕する人々講演会、
高槻市立今城塚古代歴史館、2016年11月23日

古谷 毅 「三次元計測・X線CT調査と古墳時代甲冑研究の課題」X線CT・島内139
号地下式横穴墓 - X線CT調査による古墳時代甲冑の研究(学術振興会基盤
研究B研究会)、鹿児島大学総合研究博物館・九州国立博物館・えびの市教
育委員会、2017年9月9日

〔図書〕 (計 1件)

古谷毅・犬木努・井上裕一・賀来孝代・辻川哲朗・朴天秀・林智娜・権五榮・鄭仁盛
・成正鏞・李暎澈 『日韓埴輪の比較・検討と倭系古墳出現の歴史的背景』
(第3回古代韓日古墳研究交流会・第34回古墳文化研究会予稿集)京都国立
博物館科学研究費研究会・慶北大學校、pp.1-152、2018年3月

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0件)

取得状況 (計 0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究協力者氏名：なし

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：犬木 努

ローマ字氏名：INUKI TSUTOMU

所属研究機関名：大阪大谷大学

部局名：文学部歴史文化財学科

職名：教授

研究者番号(8桁)：40270417